

寒冷期における子牛の飼養管理

本格的な冬が始まり、冷え込みが厳しくなる季節です。子牛は寒冷ストレスを受けると抵抗力が低下します。子牛のほ乳方法と寒冷対策を再確認しましょう。

1. ほ育の仕方を見直そう！

① 抗体濃度の高い初乳を出生後6時間以内に飲ませましょう

抗体濃度は初乳比重計や糖度計によって測定することができます（目安：初乳比重計 1.050 以上、糖度計 20%以上）。給与量は体重の 8～10%を給与しましょう。

② 代用乳は定時・定温・定量を給与しましょう

非感染性の下痢の多くは、飼料給与に要因が考えられます。代用乳はメーカー指定の濃度を守り、ミルクの温度は 40℃に調整して給与しましょう。

③ ほ乳器具の衛生管理

病原体を子牛に入れないためにはほ乳器具を衛生的に管理する必要があります。家庭用洗剤ではなく、ミルクと同様に専用の洗剤で洗浄しましょう。



2. 寒さから守ろう！

① 乾いた敷料をたくさん入れる

牛床が湿っているとおなかが冷えて下痢を起こしやすくなります。膝くらいまでたっぷり敷料を入れましょう。

② すきま風を防ぐ

冷たいすきま風が直接体に当たると熱が奪われ下痢のリスクが上がります。しかし、閉めきった環境では換気が悪く肺炎のリスクが上がります。暖かい日中は窓の開閉等で調整しましょう。

③ 代用乳の給与量を増やす

寒くなると体を維持するために必要なエネルギーが増加し、成長に使うエネルギーが奪われ、増体が悪くなります。冬場は代用乳の量を 10～15%程度増やして給与しましょう。

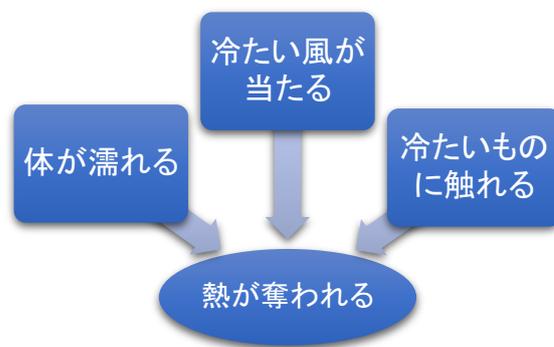


図 熱が奪われる要因